

第7回 長野県公共交通活性化協議会諏訪地域別部会 議事録

[日時] 令和7年6月30日(月)

10時00分～

[場所] 諏訪合同庁舎5階 講堂

1 あいさつ

2 会議事項

(1) 長野県公共交通活性化協議会諏訪地域別部会の構成員の変更について

(資料1-1、2)

■説明→資料1のとおり承認

(2) 長野県公共交通計画諏訪地域編の更新と新たな支援制度について (資料2、3)

【茅野市】

- ・諏訪地域の中で考え方を整理していくことは理解している。以前分科会の中で話があった松本空港から諏訪地域における部分は、諏訪地域を超えての議論になるかと思うが、こういった部分で議論をしていくのか。

→当部会で扱う路線はあくまで生活路線としているため、お話しいただいた松本空港から観光拠点を結ぶような路線については、具体的な支援制度については検討中でお答えできないが、今後宿泊税を含む観光路線の議論にて品質保証を進めていくことになると思われる。

(3) 諏訪地域編における地域拠点及び品質保証の基本的な考え方について (資料4)

■説明→資料4のとおり各分野について承認

(4) 今後の進め方について

(資料5-1、2)

3 その他

- ・日本版ライドシェアの運行について

(資料6)

【諏訪市】

- ・公共ライドシェアではなく、日本版ライドシェアで事業者である諏訪交通さんの方で主体となって進めていく予定。それに対して諏訪市の方では6月議会で予算を確保し、運行経費補助という形で支援していく。

・主な目的としては、夜間の時間帯において、地域住民、観光客の移動手段確保及び、持続可能な公共交通の構築を図っていくこと。また、ドライバーにとっても柔軟な働き

方の機会の創出とともに人手不足の解消にも期待している。

- ・ 運行開始は今年の 8 月以降開始の予定で準備中。

【諏訪赤十字病院】

・ 今回初めてこういった取組を知ったが、運行事業者は諏訪交通さんで車両は自家用車を運転するということか。今後はどのように展開していくのか。

→実証運行的に現段階は諏訪交通さんのタクシー車両ではない車両を使用予定。

時間帯の変更はないが、車両数については増減する可能性がある。

市内ではどちらかといえば、観光・飲食関係における利用者にターゲットを絞って考えている。

- ・ 富士見町交通空白に対する取組について

資料なし

【富士見町】

- ・ デマンド交通「すずらん号」の運行を継続しているが、利用者数が伸び悩んでいる。
- ・ 令和 5 年、6 年と 2 年にかけて 3 路線 6 ルートに分けたうえで定時定路線のコミュニティバスとしてアルピコ交通さんの協力のもと実証運行を実施。今後、町民の意見を加味するために住民懇話会と通じて検討していく。
- ・ 令和 7 年度は諏訪市同様ライドシェアについてニーズ調査を含め 2 つの実証を予定。1 つは、夜の時間帯の交通空白に対応する駅から集落へ戻る形でのデマンド交通「すずらん号」の実証運行。2 つ目は、別荘地である広原エリアにおける実証運行。現状、日中の「すずらん号」においてもカバーしているが、広原エリアから街中への距離が離れており、運行距離が長くなってしまうことから、広原エリア限定の乗り合いタクシーを「広原便(仮称)」という形で実証運行を検討している。

<会議資料>

- ・ 出席者名簿
- ・ 座席表
- ・ 次第
- ・ 資料 1—1 地域別部会設置要綱と変更後の委員名簿
- ・ 資料 1—2 長野県公共交通活性化協議会諏訪地域別部会構成員名簿
- ・ 資料 2 長野県地域公共交通計画諏訪地域編の更新について
- ・ 資料 3 バス路線に対する県の新たな支援制度について
- ・ 資料 4 諏訪地域編における地域拠点と品質保証の基本的な考え方
- ・ 資料 5—1 今後の進め方について
- ・ 資料 5—2 路線別課題・状況把握シート
- ・ 資料 6 諏訪市ライドシェア概要